

中国人日本語上級学習者の語用論的転移の一考察

——依頼に対する断り表現のポライトネスの表し方から——

蒙 韞*

Pragmatic Transfer by Chinese Advanced Learners of Japanese:
Expressing Politeness in the Context of Refusals to Requests

MENG Yun

Abstract

This paper investigated pragmatic transfer by Chinese nationals when speaking Japanese, by analyzing frequency of *semantic formulas*. Participants were advanced learners of Japanese, all of whom had passed Level 1 of the Japanese Language Proficiency Test and are currently residing in Japan. Data was collected by using a Discourse Complete Test. A total of 215 significant responses were obtained from 49 native Japanese speakers, 59 native Chinese speakers, and 107 Chinese learners of Japanese. The responses of the Chinese learners of Japanese were compared with the responses of the native speakers of Japanese and Chinese in terms of frequency of *semantic formulas*, and differences in expressing politeness were identified. Results showed that pragmatic transfers appeared in the semantic formulas of *hesitation, maintaining the relationship, sympathy, requirement, interjection, appellation, accusation, praise and other*. Further, a distinctive interlanguage, with characteristics different from both native language and target language was identified in the semantic formulas of *reason, apology, alternative plan, faltering and making brief responses while listening*.

1. はじめに

日本語学習者は、上級になっても母語の「ポライトネスのルール」を日本語に持ち込み、ミス・コミュニケーションを起こすことが少なくない。とりわけ、「断り」の場合には依頼主との関係を悪化させる可能性があるため、ポライトネスのルールに従った表現形式が使える能力を身につける必要性は高い。本研究では、会社員の日本語母語話者、会社員の中国語母語話者、第二言語学習の環境にいる中

国人日本語上級学習者¹⁾を対象に、「友達に英訳のチェックを頼まれて断る場合」と「友達に借金を頼まれて断る場合」における日本語母語話者と中国語母語話者のポライトネスの表し方の相違を明らかにする。これにより、学習者のポライトネスの表し方における語用論的転移の実態を考察する。

2. 「ポライトネス」, 「語用論的能力」, 「語用論的転移」の定義

Usami (2002) はポライトネスについて
“Functions of language manipulation that work

* 名古屋大学大学院国際開発研究科博士課程後期課程

to maintain smooth human relationships (円滑な人間関係を維持するために働いている言語操作の機能, 筆者訳)” (Usami 2002: 4) と定義している. 本研究ではこの Usami (2002) の定義に基づいて分析する. ここでいう語用論的能力 (pragmatic competence) とは, 状況に応じて適切に言語を使用する能力のことである (大澤 2006: 19). また, 語用論的転移とは, “transfer of first language (L1) sociocultural communicative competence in performing L2 speech acts (母語の社会文化的規範を目標言語における発話行為へ転移すること, 筆者訳)” とする (Takahashi and Beebe 1987: 134). つまり, 語用論的転移とは, 目標言語における社会文化的規範や適切な言語使用といった語用論的知識の欠如を補うために, 第二言語学習者が母語におけるそのような知識もしくはルールを直接的あるいは間接的に流用して, 目標言語を使用した時に起こる現象である. 目標言語と母語の社会文化的規範が似ている場合には語用論的転移はプラスに働くことが多いが, 異なる場合の転移はコミュニケーションの破綻や誤解を生む原因となることがある.

3. 先行研究と研究目的

次に発話行為にみられる中国人日本語学習者の語用論的転移に関する主要な先行研究を概観する.

藤森 (1994) は, 中国人日本語学習者の断り行為を, 日本語母語話者と来日間もない中国語母語話者のそれと比較した. 学習者全員の日本語のレベルは中級以上で, 日本滞在期間は 6 カ月から 6 年までであった. 調査対象者は 251 名で談話完成テストを用いて調査を

行った. データ分析では, 談話完成テストの回答から意味公式²⁾を抽出し, 意味公式の発現順序, 発現頻度及び発話連続数について検討する方法を用いた. その結果, 親近度の高い相手に断る場面に日本語母語話者は「詫び」先行型をとるのに対して, 学習者は中国語母語話者と同じく詫びを使用しない傾向があることから, この点で学習者の語用論的転移が見られたと述べている. また, {代案}³⁾の提示は, 日本語母語話者にはあまり見られなかったが, 中国人日本語学習者の場合は使用頻度が高い. これは母語からの語用論的転移であると判断された.

水野 (1996) は, 日本語学習者の中間言語を分析することにより, 学習者が母語と日本語の語用論的知識をどのように使用しているか, またその使い方は日本語の習得レベルによって違いが見られるかどうかを考察している. 発話行為は「依頼」で, 上級レベル 12 名と中級レベル 20 名の中国人日本語学習者と, 日本語母語話者 12 名にロールプレイを使った調査を実施した. 調査結果として, 「依頼」行動の際の言語使用と社会状況との間に関係があること, 学習者の「依頼」の言語表現は目標言語の習得レベルに制約されることを指摘している. さらに, 言語表現のフォームの習得は社会言語学的相互行為の認知に先立つという結論が述べられている.

邱 (2000) は, ストラテジーの選択基準, 第二言語能力と母語からの語用論的転移の関係を考察するため, 同じ場面で人間関係 (上下・親疎) のみを変え, 日本社会にも, 中国社会にもありうる場面を設定し, 日本語母語話者同士, 中国語母語話者同士, 日本語母語話者と中国人日本語上級学習者, 日本語母語話者と中国人日本語中級学習者に対して, そ

れぞれ 10 組でトータル 40 組のロールプレイ (1 組につき 8 場面) を行い、データを収集した。その結果、断りのストラテジーを選択する際には、全体的に中国語母語話者は「上下関係」によるものが 2 箇所、「親疎関係」によるものが 6 箇所であるが、日本語母語話者は「上下関係」によるものが 4 箇所、「親疎関係」によるものが 6 箇所であった。また、上級学習者、中級学習者ともに語用論的転移が見られるが、中級学習者の方が多いとしている。

本研究は、これら先行研究の場面設定とデータ分析方法を参考にした上で、Brown and Levinson (1987) のポライトネス理論に基づき、聞き手を話し手と同等の力関係にあるもの、具体的には友人とし、話し手と聞き手の「社会的距離」を「親しい」と「疎遠」な関係に分ける。また、特定の文化において、ある行為 (x) が「相手にかける負荷度」の絶対的順位に基づく重みを「軽いもの」と「重いもの」に分け、意味公式の頻度から日本語母語話者 (以下は JJ と略す) と中国語母語話者 (以下は CC と略す) のポライトネスの表し方の相違を明らかにする。これにより、中国人日本語上級学習者 (以下は JSL と略す) のポライトネスの表し方に母語の社会文化的規範が具体的にどのように転移されているの

かを明らかにする。

4. 研究方法

まず、本研究の調査対象者を以下の表 1 に示す。

先行研究では、友達同士で訳文チェックを頼む場面が最も多く設定された。友達同士で英訳のチェックを頼む場面が日本社会にも、中国社会にもありうる場面設定だと考えられるため、本研究においても「友達に英訳のチェックを頼まれて断る場面」を設定した。また、「友情」と「お金」に関わる借金の場面は日常生活で遭遇しやすく、被験者も想定しやすいと思われるため、このような場面を設定する必要があると考え、「友達に借金を頼まれて断る場面」を設定した。本研究の談話完成テストは以下のようである。

「場面 1」水曜日の午後 7 時。あなたは仕事が終わって帰る途中です。そのとき、携帯が鳴りました。携帯に出ると、友達の A さんでした。

A さん：ねえ、今晚暇？

あなた：何か用？

A さん：日本語から英語に訳した資料が A4 で 20 枚ぐらいあるんだけど、訳を

表 1 調査対象者

調査対象者	人数 (名)	年齢 (平均)
JJ: 日本の企業で事務職に就いている日本人会社員 ⁴⁾ 。	49 名 (男: 19 名 女: 30 名)	22 ~ 44 歳 (平均 30 歳)
JSL: 日本の大学・大学院に留学している中国人学生 ⁵⁾ 。	107 名 (男: 26 名 女: 81 名)	21 ~ 37 歳 (平均 26 歳)
CC: 中国の国営・民営の企業で、事務職に就いている中国人会社員 ⁶⁾ 。	59 名 (男: 33 名 女: 26 名)	22 ~ 33 歳 (平均 25 歳)

チェックしてもらえない？ 明日の朝、出さないといけないから。

(あなたは英語が得意なのですが、今晩は恋人または家族と映画を見に行く約束があります。)

①もし A さんがあなたと仲のいい友達なら、
どう断りますか

あなた：

②もし A さんがあなたの普通の友達なら、どう断りますか

あなた：

「場面 2」日曜日の午前 11 時頃、あなたは朝寝坊して起きたばかりです。その時、ドアのベルが鳴りました。ドアを開けると、C さんでした。C さんは慌てていて何か用事がありそうです。C さんを部屋の中へ招き入れようとしたのですが、C さんは部屋に入らないで玄関のところで話し始めました。
C さん：あもう、ちょっとお願いがあるんだけど。

あなた：え、何？

C さん：実は、今月お金を全部使っちゃって、部屋代とかを明日までに払わなければならなくて困っているんだけど、出来れば～万円ぐらい貸してくれないかなあ。

(もしその金額があなたの 1 ヶ月の生活費の半分以上だったとしたら)

①もし C さんがあなたと仲のいい友達なら、
どう断りますか

あなた：

②もし C さんがあなたの普通の友達なら、どう断りますか

あなた：

以上のような談話完成テストを用いて調査を行った。また、語用論的転移と見られる現象が果たして本当に母語からの転移なのか語用論的認識不足によるものなのかという判断を下すため、フォローアップ・インタビューが可能な学習者 22 名を対象に、中国語でフォローアップ・インタビューを行った。

データの分析に関しては、まず意味公式の分類には、藤森 (1994) と伊藤 (2003) の分類がある。藤森 (1994) は断り行為を分析した Beebe, Takahashi and Uliss-Weltz (1990) の分類を日本語の分析に資するように修正した。具体的な内容は表 2 で示す。

これに対して、伊藤 (2003) の分類では表 3 のようになっている。なお、伊藤 (2003) は調査対象者に断りの回答を書くように誘導していないため、藤森 (1994) の分類が一部修正されて、{情報} {条件} {承諾} {その他} が追加されている。

以上、藤森 (1994) と伊藤 (2003) の分類を概観したが、この二つの先行研究の分類を本研究でそのまま使用することには、以下の問題点がある。

(1) 藤森 (1994) は、{ためらい・反復} と {相づち} が二つの項目に分けられているが、談話完成テストの発話データを実際に分析する時、音声データが無いため、アクセントなどが聞けず、{ためらい・反復} か {相づち} かを判断し難い。

(2) 藤森 (1994) と伊藤 (2003) では、{代案} の意味機能の定義がやや不十分である。すなわち、「相手との関係を維持したい旨の積極的な働きかけ」の {代案} には、相手の意向に添えない状況に変わって自分からする場合と、自分ができなくても他の人を紹介する場合の二つがある。先行研究の {代案} の

表 2 意味公式の分類 (藤森 1994 : 5-6)

意味公式	意味機能	例	相互作用機能
① {結論}	直接的な意図の表出	行かない, 行けない, だめだ, いやだ	情報直接伝達
② {弁明}	相手の意向に添えない旨の表出	(a) 理由を述べてから結論を言う場合: 今日は主人の誕生日なので (b) 理由だけを述べて「言いさし」の形にする場合: その日は都合が悪いので	自己の領域の確保の表明
③ {詫び}	相手の意向に添えないことを負担に感じている表出	すみません, すまん, ごめんなさい, ごめん, 申し訳ございません, 悪いけど, 悪い, 申し訳ない	相手の領域を侵さないことの表明
④ {代案}	相手との関係を維持したい旨の積極的な表出	～さんを誘ってみたいらどうですか, 今度, 私をご馳走します.	補償・訂正の表明
⑤ {関係維持}	相手との関係を維持したい旨の消極的な表出	また今度誘ってください, またよろしくお願いします, 今度よろしく	共存意識の表明
⑥ {共感}	相手の意向に添いたい心情の表出	行きたいんだけど, 行きたいんですが, 残念だけど, せっかいです	共存意識の表明
⑦ {感謝}	相手の行為により恩恵を受けたことの表出	ありがとうございます, ありがとう, ありがたいんですが	状況転換による関係修復
⑧ {間投詞的表出}	相手に驚きや喜びを伝えるための表出	うわあ, うれしい! くやしいぐらいです	会話上の標識
⑨ {ためらい・反復}	相手にためらいのポーズを表し, 断り発話の発現を予測させる旨の表出.	あの, あのう, いや, ああ, ああそう, ええ	会話上の標識
⑩ {相づち}	相手に同意したり, 発言権が変わるときの表出.	あ, そう, ああそう, そうですねえ, あ, そうか, ほう, おや, ん, ま	会話上の標識

意味機能の定義を補足する必要がある.

(3) 伊藤 (2003) は {条件} の意味機能を「断りの保留」と定義しているが, 実際にデータを分析する時, この定義では判断が難しいと感じられるケースがあり, 補足する必要があるように思える.

そこで本研究では, これまで述べたような

先行研究の分類の問題点をふまえて, 意味公式の分類基準を以下の表 4 と表 5 のように統一した.

本研究は次のようにデータを分析した. まず, 日本語の意味公式の分類基準をできる限り忠実に中国語へ翻訳した. 両者の内容に違いがないかどうかを確認するために, 日本語

表 3 意味公式の分類 (伊藤 2003 : 83)

意味公式	意味機能	例
① {結論}	直接的な表現の断り	行けない, 無理です, できない
② {理由}	相手の意向に添えない旨の表明	友達の結婚式に出ますから
③ {詫び}	相手の意向に添えないことを負担に感じている旨の表明	申し訳ありません, ごめんね, 勘弁して, 怒らないで
④ {代案}	相手との関係を維持したい旨の積極的な働きかけ	～さんに頼んでみたらどう? 代わりを探そうか?
⑤ {関係維持}	相手との関係を維持したい旨の消極的な働きかけ	次回は行きます, また今度ね, 次は出席します
⑥ {共感}	相手の意向に添いたい心情の表明	行きたいけど, 残念ですが, したくないことはないけど
⑦ {感謝}	相手の行為により恩恵を受けたことの表明	ありがとうございます, ありがたいんですが
⑧ {情報}	相手の発話内容を確認	今週の土曜日ですか? 何時から? 明日まで?
⑨ {条件}	断りの保留	レポートを書いてから, 時間があれば, 約束はしないけど
⑩ {承諾}	明確な承諾	行きます, やります, 分かりました
⑪ {その他}	上記に該当しないもの	ちょっと…, あのう…, えーと

を専攻している中国人の大学院生2名にチェックしてもらった。次に, JJ と JSL 個々の発話についてのデータが意味公式のどのタイプになるかを, 筆者および, 日本語教育を専攻している日本人の大学院生2名と中国語教育を専攻している日本人の大学院生1名がそれぞれ独立に判断した。一方, CC のデータは, 筆者, 中国人の中国語アナウンサー1名, 中国語に特に堪能である中国人⁸⁾1名と日本語を専攻している中国人の大学院生1名が JJ と JSL のデータと同様の方法で判断した。なお, 分類の過程において判断が分かれた場合は多数決とし, 同数の場合は協議し, どうしても合意できない極少数の事例は筆者が最終判断を下した。全体的には, JJ と JSL のデータに対する評定者間の判断の一致度は

89.5%で, CC の場合は 89.7%であった。

次に, 意味公式の頻度によって, JJ, CC と JSL の返答を考察した。場面・相手人物ごとに意味公式の頻度を分析することによって, 日中両言語の断り表現におけるポライトネスの表し方の違いを明らかにする。さらに, JSL の日本語と JJ のそれを比較し, ポライトネスの表し方における母語からの語用論的転移の影響を考察していく。

5. 分析と考察

データ処理の統計分析に関しては, 変数の性質等から最適なものとして, カイ2乗検定を行うことを検討した。しかし, 今回のデータは, 意味公式の使用回数が, 学習者一人一

表 4 意味公式の分類 (日本語版)

意味公式	意味機能	例
① {結論} (以下の図では、①と略す)	直接的な表現の断り	行けない、作れない
② {言いさし} (以下の図では、②と略す)	相手の意向に添えない旨をすらすら言わず、自分の心情を相手に察してもらう	明日は少し…、ちょっと…、どうしても明日の仕事…
③ {理由} (以下の図では、③と略す)	相手の意向に添えない旨の表明	明日どうしてもはずせない用事があるので
④ {詫び} (以下の図では、④と略す)	相手の意向に添えないことを負担に感じている旨の表明	すみません、ごめんなさい、申し訳ない、悪い
⑤ {代案} (以下の図では、⑤と略す)	相手との関係を維持したい旨の積極的な働きかけ： ・自分のこと ・他人のこと	・自分のこと：日曜日であれば、出られますが。 ・他人のこと：ほかの人に頼んでみたらどう？
⑥ {関係維持} (以下の図では、⑥と略す)	相手との関係を維持したい旨の消極的な働きかけ	また今度ね、今度やります
⑦ {共感} (以下の図では、⑦と略す)	相手の意向に添いたい心情の表明	やりたいけど、残念ですが、せっかく言ってくれたのに
⑧ {感謝} (以下の図では、⑧と略す)	相手の行為により恩恵を受けたことの表明	ありがとうございます、ありがたいんですが
⑨ {情報} (以下の図では、⑨と略す)	相手の発話内容を確認	すぐですか？ 明日ですか？
⑩ {条件} (以下の図では、⑩と略す)	条件によって、自分ではできる場合とできない場合の両方の可能性がある、断りの留保	・こちらの仕事を終わらせてから、また考えます。 ・約束はしないけど
⑪ {承諾} (以下の図では、⑪と略す)	明確な承諾	わかりました、やります
⑫ {間投詞的表出} (以下の図では、⑫と略す)	相手に驚きや悩みなどの心情を伝えるための表出	うそ！ まじかよ！ 大変ですね、困ったなあー！
⑬ {ためらい・相づち} (以下の図では、⑬と略す)	・相手にためらいのポーズを表し、断り発話の発現を予測させる旨の表出 ・発話権が変わる時の表出。つまり相手に同意したりしてから断る ⁷⁾	あの、あのう、いや、ああ、ああそう、ええ、あ、そう、そうですね、そうか、ほう、おや、ん
⑭ {呼称} (以下の図では、⑭と略す)	相手に対する呼び方	課長、Aさん
⑮ {非難} (以下の図では、⑮と略す)	相手や相手のことに不満な心情の表明	私を殺す気ですか？ 早めに言ってくれればいいのに
⑯ {賞賛} (以下の図では、⑯と略す)	相手や相手のことをほめる心情の表明	あなたの英語がうまいだろう、君ならきっと大丈夫だよ
⑰ {その他} (以下の図では、⑰と略す)	上記に該当しないもの	ハハ、へへ

注：

① 「(お)役に立てなくてすみません」と「力になれなくてごめんなさい」を「(お)役に立てません、ごめんなさい」と「力になれません、ごめんなさい」のように {結論}+{詫び} に分類し、「助けられなくてごめんなさい」と「(お)手伝いできません、すみません」のように {結論}+{詫び} に分類する。

② 相手の意向に添えない旨を表明してから、どうすればよいかを相手に決めてもらう言語表現を {結論} に分類する。

例 1 体調が悪くて、明日は病院へ行きたいので、

課長、どうすればよろしいのでしょうか。 {結論}

③ 複文の場合：

例 2

Xさんにたのんでみたらどう？ 彼女は暇そうだし、いつも手早いから、

(1) 代案 (2) 代案の理由 (3) 代案の理由

「(1) 代案」と「代案の理由 (2), (3)」, これら全てを総合して {代案} 一つとする。

例 3

明日は母の誕生日なので、もう母と一緒に休日を過ごす約束をしているんです。

(1) 理由の説明

(2) 理由の説明

理由の説明 (1) と (2) 全てを総合して {理由} 一つとする。

④ 繰り返しの場合

例 4 「ごめん (1) ごめん (2) ごめん (3)」を {詫び} 3 回とカウントする。

例 5 「ごめん (1), 明日は病院へ行くから、行けない、ごめん (2)」

{詫び}

{理由}

{結論}

{詫び}

この文の場合、{詫び} を 2 回とカウントする。

表5 意味公式の分類（中国語版）

意思公式	意思的功能	例
① {结论}	直接表示拒绝	不行啊；做不了；无法办到；无能为力；帮不了你
② {欲言又止}	不直接说不符合对方意图的想法，通过含蓄的表达希望对方能察觉到自己的想法	明天…；有点…；所以…；这…
③ {理由}	说明不能满足对方要求的原因	明天有事
④ {道歉}	因不能满足对方的要求，心理感到负担	对不起；不好意思；实在抱歉啊；你放过我吧；你饶了我吧
⑤ {代替方案}	积极主动地去维持与对方的关系： • 自己方面 • 他人方面	• 自己方面： 星期天下午来，行吗？ • 他人方面： 你问问小李！
⑥ {关系维持}	消极地去维持与对方的关系	下次吧，下次早点说，希望以后能为你效劳！
⑦ {同感}	表明自己想满足对方要求的心情	我很想帮你；真不巧呀；如果你早点说就好啦！
⑧ {感谢}	表明自己受到对方的恩惠	谢谢啦；真是太感激你啦！
⑨ {信息}	确认对方说话的内容	马上吗？ 是明天要来加班吗？
⑩ {条件}	根据到时的情况，自己有行与不行的两种可能，拒绝的保留	要是有时间的话，我再和你联系；我先看看…
⑪ {应诺}	明确地答应对方的要求	明白啦；行；我马上就做
⑫ {感叹句}	对对方的要求，或是所做的事情表示自己惊奇或是苦恼等的心情	我晕呢；天呀；我的天啊；哎呀，完蛋啦！ 哦，上帝啊！ 啊？ 哎呀！ 呀！ 哎！
⑬ {踌躇•随声附和}	• 犹豫踌躇的停顿，暗示对方自己想拒绝 • 随声附和，取得发话权	嗯～；啊，不是吧？ 啊～；哦～；唉～；呃～； 哦，这样啊？
⑭ {称呼}	称呼对方的方法	B 科长；领导；老大啊；老大；老兄；科长大人
⑮ {责备}	表明自己对对方或是对方所做事物的不满	都累死啦！ 上吊也得休息一下吧！
⑯ {赞赏}	表明自己对对方或是对方所做事物的赞赏	你的能力比我还好呢！你的英语可棒啦！
⑰ {其他}	不符合以上任何一栏的表达	哈哈；呵呵；明天加油哟！

注：

① 对于“不好意思，帮不了你”，“帮不上忙，十分抱歉”的分类：

不好意思，帮不了你→不好意思，帮不了你。
 {道歉} {结论}

帮不上忙，十分抱歉→帮不上忙，十分抱歉。
 {结论} {道歉}

② 说明自己不能满足对方要求的原因之后, 征求对方的意见或建议的语言表达作为 {结论} 来分类。

例 1：真是为难我啦，我手头上的工作都必须在 6 点前完成，你建议我怎么办？ {结论}

③ 复句的分类方法：复句中再按它的最小意思分出来，每个最小意思按顺序标上数字！

例 2:

你问问小张，她现在好像挺闲的，而且她办事很麻利！

1. 代替方案 2. 代替方案的理由 3. 代替方案的理由

把以上的“1. 代替方案, 代替方案的理由 2, 3”作为一个 {代替方案},

例 3:

明天是我妈妈的生日，我已经约好陪妈妈去度假。

理由的说明 1

理由的说明 2

把以上的“理由的说明 1, 2”作为一个 {理由}.

④ 对于重复发话的分类方法：

第一种情况：把“对不起1 对不起2 对不起3”作为三次 {道歉} 来看，

第二种情况：在“对不起，我明天已佳人有约，对不起。”这种情况下，{道歉} 作为两次来看。

人で異なり、カイ2乗検定を行うための必要前提条件の1つである、データの独立性が無いことが判明した。また、意味公式の数が比較的多く、総使用数が、比較的少ないことから、カイ2乗検定を用いた場合、多くのセルで、期待値5以上という条件を満たせないことも判明した。とはいえ、セルの合併は、予め設定した個々の意味公式毎に分析を加えることが必要であり、今回の研究課題からは望ましくない。これらの理由により、今回は、カイ2乗検定をはじめとする統計検定を使用することは不適切と判断した。

従って、今回のデータに対しては、意味公式の頻度については、量的な分析は記述統計レベルにとどめることとした。図1・図2・図3・図4は、有効回答数がグループ毎に異なることを考慮して1人当たりの使用頻度を30人当たりの使用頻度に調整した意味公式の使用頻度である。

5.1 「仲のいい友達に英訳のチェックを頼まれた場合」

仲のいい友達に英訳のチェックを頼まれた場合、日中両言語ともに、①の {結論}、③の {理由}、⑤の {代案} という3つの意味公式が高い頻度で現れている。特に注目されるのは、全てのグループにおいて③の {理由} が30回を超えるが、その頻度はJJよりCCの方が高い。しかし、⑬の {ためらい・相づち} はJJでは現れているが、CCでは現れておらず、⑭の {呼称} はCCのみに現れている。

JSLとJJを比較すると、③の {理由}、④の {詫び}、⑤の {代案}、⑨の {情報}、⑫の {間投詞的表出}、⑬の {ためらい・相づち}、⑮の {非難}、⑯の {賞賛} と⑰の {その他} はJJとJSLに使われているが、JJの使用頻度に比べて、学習者グループのほうが2倍以上高いので、これらは学習者の過剰般化⁹⁾であろう。

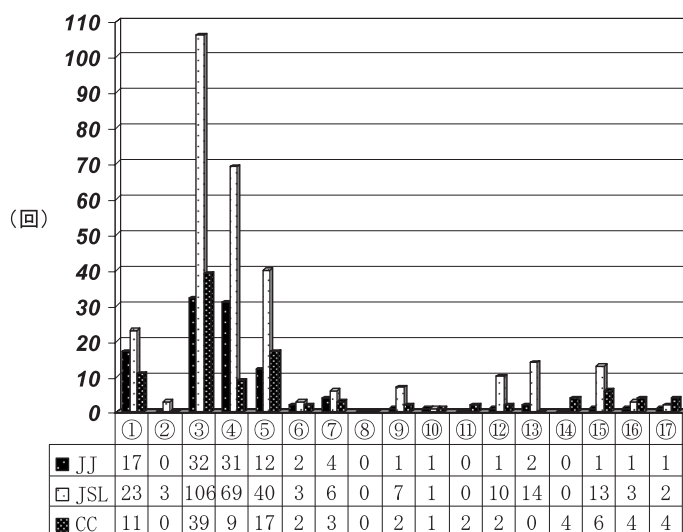


図1 30人当たりの意味公式使用頻度

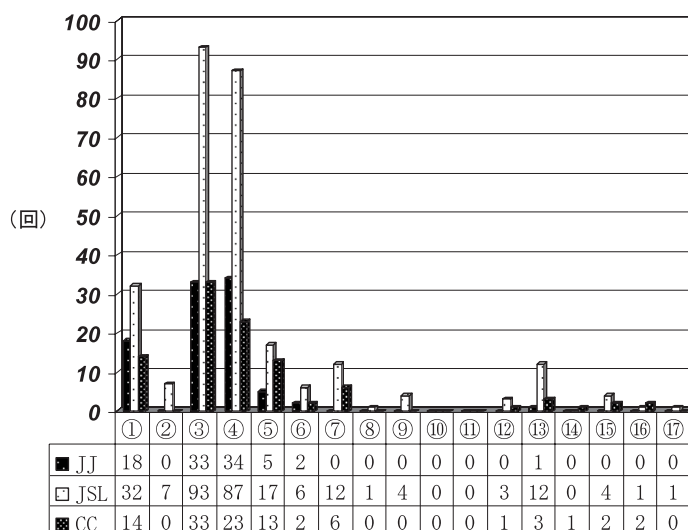


図2 30人当たりの意味公式使用頻度

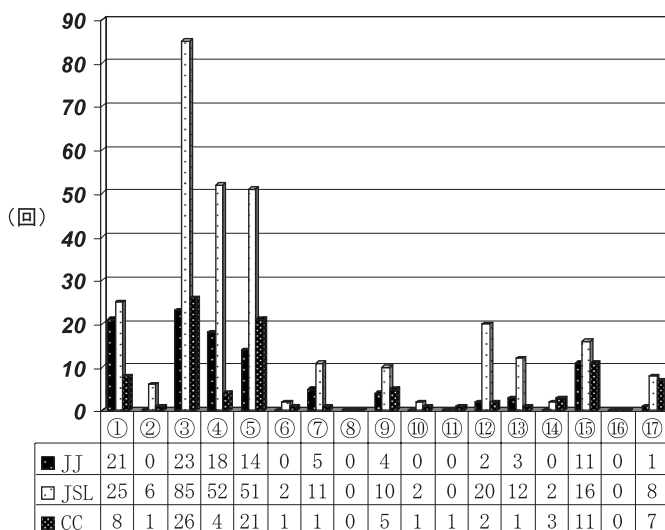


図3 30人当たりの意味公式使用頻度

5.2 「普通の友達に英訳のチェックを頼まれた場合」

普通の友達に英訳のチェックを頼まれた場合、日中両言語共に、①の{結論}、③の{理由}、④の{詫び}という3つの意味公式に高い頻度が集中している。③の{理由}は日中両言語ともに33回使用されている。また、

CCは、仲のいい友達からの依頼に対して④の{詫び}を9回の頻度で使用しているのに対して、普通の友達の場合は23回の頻度となっている。すなわち、CCの仲のいい友達に対する{詫び}という意味公式の頻度は普通の友達に比べ低いと言える。さらに、⑦の{共感}はCCに6回現れているが、JJには現

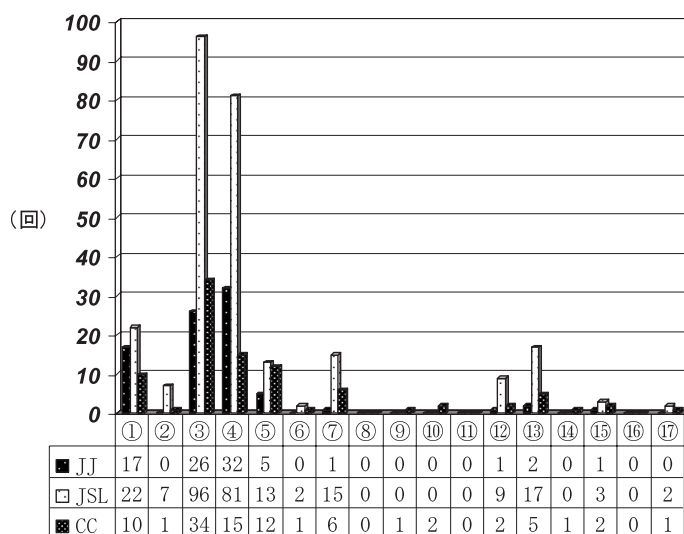


図4 30人当たりの意味公式使用頻度

れていない。

JSLとJJを比べると、⑦の{共感}、⑫の{間投詞的表出}、⑮の{非難}と⑯の{賞賛}はJJに現れていないのに対し、CCと学習者グループには現れており、これらは母語からの語用論的転移と判断できる。また、①の{結論}、③の{理由}、④の{詫び}、⑤の{代案}、⑥の{関係維持}と⑬の{ためらい・相づち}は両グループにおいて使用されているが、JSLの使用頻度がJJの2倍以上であるため、これらは学習者の過剰般化と言える。

5.3 「仲のいい友達に借金を頼まれた場合」

仲のいい友達に借金を頼まれた場合は、仲のいい友達に英訳のチェックを頼まれた場合と同様に、日中両言語ともに高い頻度で、①の{結論}、③の{理由}、⑤の{代案}の3つの意味公式が現れる。また、⑮の{非難}の意味公式が両言語ともに11回程度使用されている。このことから、友情関係が金銭問題により傷つくことを避ける場合に、相手の

ことを責めるという日中両国の社会文化的規範が近似していると推測できる。そこで、{非難}は学習者にとって習得しやすいものと考えられる。さらに、CCは⑭の{呼称}を使用しているのに対して、JJは使用していない。

JSLとJJを比較すると、②の{言いさし}、⑥の{関係維持}、⑩の{条件}と⑭の{呼称}はJJには使われていないのに対して、JSLとCCには使われており、これらは母語からの語用論的転移と判断する。また、③の{理由}、④の{詫び}、⑤の{代案}、⑦の{共感}、⑨の{情報}、⑫の{間投詞的表出}、⑬の{ためらい・相づち}と⑰の{その他}はJJとJSLに使用されているが、JSLはJJの2倍以上多く使用しているため、これらは学習者の過剰般化と考えられる。

5.4 「普通の友達に借金を頼まれた場合」

普通の友達に借金を頼まれた場合は、普通の友達に英訳のチェックを頼まれた場合と同

様に、日中両言語共に①の {結論}、③の {理由}、④の {詫び} の3つの意味公式に高い頻度が集中し、④の {詫び} がJJに最も多く使われている。また、⑦の {共感} はJJの使用頻度が1回であるのに対して、CCは6回でJJの6倍である。さらに、CCは②の {言いさし} を使用しているが、JJは使用していない。

JSLとJJを比べると、②の {言いさし}、⑥の {関係維持} と⑩の {その他} はJJに現れていないのに対し、CCと学習者グループに現れているので、これらは母語からの語用論的転移と判断できる。また、③の {理由}、④の {詫び}、⑤の {代案}、⑦の {共感}、⑫の {間投詞的表出}、⑬の {ためらい・相づち} と⑮の {非難} に関しては、JJとJSLに使用されているが、JSLの使用頻度がJJの2倍以上であるため、これらは学習者の目標言語の過剰般化であろう。

5.5 全場面の考察

以上の場面をまとめると、以下のことが考えられる。

(1) {詫び} は、JJにとって親疎関係に関わらず、各場面で高頻度で使用する意味公式であるが、CCにとっては疎遠な相手のみに高頻度で使用する意味公式である。Brown and Levinson (1987) のポライトネス理論では、{詫び}は自分がこれから行おうとする「断り」行為によって相手の面子が脅かされることを軽減するために用いられるネガティブ・ポライトネスを保つ方略であると指摘されている。このネガティブ・ポライトネスのストラテジーは、疎遠な相手に使用される時、一種の「社交辞令」として働き、距離を置きながらも失礼にならないようにという配慮があるもの

と言えよう。

(2) {呼称} は、JJには使用されていない意味公式であるが、CCは仲のいい友達に英訳のチェックを頼まれた場合に4回、仲のいい友達に借金を頼まれた場合に3回、普通の友達に英訳のチェックを頼まれた場合と普通の友達に借金を頼まれた場合にそれぞれ1回ずつ使用している。興水 (1977: 273) は、現代中国語における敬意の表現は日本語のように体系的な敬語法としてではなく、「相手をどう呼ぶか、あるいは自分をどのように呼ぶか」という呼称問題に大きな比重が置かれている」と言う。ト (2004: 313) は中国では「人々は、社会生活の中で、場面に応じて尊敬表現を使用し、相手や話題において言及している人を尊敬の度合いを区別して相応しい発話をするを良識としている。特に、人に対する呼び方においてポライトネス心理の働きの顕著に現れる」と論じている。{呼称}は、他にも敬意を表す多くの手段がある日本語にとっては中国語ほど重要ではないと考えてもよいのではないだろうか。

(3) JSLは {言いさし}、{関係維持}、{共感}、{条件}、{間投詞的表出}、{呼称}、{非難}、{賞賛} と {その他} において、場面・相手ごとに母語からの語用論的転移が見られた。しかし、{理由}、{詫び}、{代案} と {ためらい・相づち} に関して、JSLはJJ、CCのどちらよりも多く使用する傾向が見られた。水野 (1996) は、学習者の「依頼」は単に母語のストラテジーが転移しているのではないらしいこと、また上級レベルの学習者の発話は母語・日本語のどちらの言語使用上の社会的文化的基準とも一致しないと指摘している。この点に関して、本研究の結果は「断り」行為において、水野 (1996) の結果と同じであっ

た。このことは、過剰般化を含む、少なくとも部分的な中間言語の独自性、すなわち、母語でも、目標言語でもない特徴の存在を示唆している。

6. まとめと今後の課題

本研究では、「友達に英訳のチェックを頼まれて断る場合」と「友達に借金を頼まれて断る場合」という2場面からなる談話完成テストを用いて調査を行った。そして、意味公式の頻度から日本語母語話者と中国語母語話者のポライトネスの表し方の相違を明らかにすることにより、学習者のポライトネスの表し方に母語の社会文化的規範が具体的にどのように転移されているのかを分析した。その結果、以下のことが分かった。

(1) 日本語母語話者と中国語母語話者のポライトネスの表し方の相違点として、日本語母語話者は{詫び}を各場面で高頻度で使用しているが、中国語母語話者は疎遠な相手のみに高頻度で使用している。また、日本語母語話者は{呼称}をどの場面でも使用していないが、中国語母語話者は各場面で使用している。

(2) 中国人日本語上級学習者による{言いさし}、{関係維持}、{共感}、{条件}、{間投詞的表出}、{呼称}、{非難}、{賞賛}と{その他}の使用には、場面・相手ごとに母語からの語用論的転移が見られたが、{理由}、{詫び}、{代案}と{ためらい・相づち}の使用に関しては、日本語母語話者、中国語母語話者のどちらよりも多く使用する傾向が見られた。

今回は意味公式の頻度から学習者の語用論的転移について分析を行ったが、データ自体

の特性から今回はカイ2乗検定をはじめとした検定は使用しないこととした。今後は、データの量を増やすなど、量的な分析も試みたいと考えている。

謝辞：本稿の執筆にあたっては、指導教官の木下徹先生にご指導を賜り、査読者・編集委員会の方々には貴重なコメントをいただいた。また、調査を行う際、友人の王欢さん、贾彦香さん、覃莹さんと翁弈翎さんにはご協力をいただいた。この場を借りて心より感謝申し上げる。

注

- 1) 本稿では中国語を母語とする学習者と同義とする。
- 2) 藤森(1994)では、意味公式は発話行為を分析する際の単位として定義されている。それは発話を社会的相互作用の中で見た場合の発話行為具現化のための最小の機能単位だと考えられる。例えば、{詫び}という意味公式は、「相手の意向に添えないことを負担に感じている表出」という意味機能を果たしている。
- 3) 意味公式は{ }と表記する。
- 4) 日本の会社の社会文化的規範を会得していると考えられる。
- 5) 全員日本語能力試験1級に合格しており、上級レベルに該当する。
- 6) 中国の会社の社会文化的規範を会得していると考えられる。
- 7) 例えば、「仲のいい友達に英訳のチェックを頼まれた場合」:
Aさん：ねえ、今晚暇？
あなた：何か用？
Aさん：日本語から英語に訳した資料がA4で20枚ぐらいあるんだけど、訳をチェックしてもらえない？ 明日の朝、出さないといけないから。
あなた：うん、チェックしてあげたいけど、今晚は大事なデートがあるから、ちょっと無理だなあ、本当にごめん。

- 8) この人は社会人歴が長く、対外的な文書作成を仕事としており、言語感覚が優れている。
- 9) 過剰般化(過剰一般化ともいう)とは、目標言語の1つの規則や意味的特徴を異種類の項目に適用させることである(水谷[他]2005:700)。

参考文献

- Beebe, L. M., Takahashi, T., and Uliss-Weltz, R. 1990. Pragmatic Transfer in ESL Refusals. In Scarcella, R. C., Andersen E. S., and Krashen S. D. (eds.). *Developing Communicative Competence in a Second Language*. Rowley, MA: Newbury House Publishers, 55-73.
- Brown, P. and Levinson, S. 1987. *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 藤森弘子. 1994. 「日本語学習者に見られるブラグマティック・トランスファー:『断り』行為の場合」『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』1: 1-19.
- 伊藤恵美子. 2003. 『マレー語母語話者のポライトネスの諸相—勧誘・依頼行為に対する返答を中心に滞日期間の観点から』名古屋大学国際開発研究科国際コミュニケーション専攻博士学位論文
- 興水優. 1977. 「中国語における敬語」『岩波講座日本語 4 敬語』岩波書店 271-300.
- 水野かほる. 1996. 「『依頼』の言語行動における中間言語語用論: 中国人日本語学習者の場合」『言語文化論集』17(2): 91-106.
- 水谷修[他]. 2005. 『日本語教育事典』大修館書店 700-701.
- 大澤真也. 2006. 「英語教育における語用論的能力の概念」『広島修大論集 人文編』46(2): 19-31.
- ト雁. 2004. 「呼称におけるポライトネス心理考察—親族呼称の虚構的用法に関する日・中・英語比較」『淑徳大学社会学部研究紀要』38: 313-328.
- 邱利華. 2000. 「日本語母語話者と中国人日本語学習者の「断り」の対照研究」『比較社会文化研究』8: 57-76.
- Takahashi, T. and Beebe, L.M. 1987. The Development of Pragmatic Competence by Japanese Learners of English. *JALT Journal*. 8: 131-155.
- Usami, M. 2002. *Discourse Politeness in Japanese Conversation: Some Implications for a Universal Theory of Politeness*. Tokyo: Hituzi Syobo.